

地域に根ざした女性部活動を目指して
～魚食普及活動とボランティアへの取り組み～

西網走漁業協同組合女性部
部長 國分 豊子

1. 地域の概要

私たちの住む網走市は、北海道の北東部に位置し、人口約 43,000 人の水産業と農業、観光を中心とした産業の町である。この網走市はオホーツク海に面し、冬には流氷が接岸することで知られているほか、能取湖をはじめ網走湖、藻琴湖、濤沸湖と四つの湖があり、これら湖沼群の優美な景観と独特な自然環境から毎年多くの観光客が訪れている。

2. 漁業の概要

私たちの所属する西網走漁業協同組合は網走湖と能取湖を操業区域とする内水面漁協である。組合員は網走湖が 41 名、能取湖が 32 名の合計 73 名で構成されている。網走湖はシジミ、ワカサギ、シラウオを主に漁獲しており、能取湖はホタテ稚貝、ホタテ成貝、ホッケイエビを主な漁業として両湖で合計年間約 14 億円の水揚げがある。内水面漁業という限られた区域のため、漁業者全員参加の資源量調査や操業日誌の記入などを実施し、資源管理型漁業を推進している。また、ワカサギやクロガシラガレイ等の人工ふ化放流など繁殖保護活動も実践し、水揚げ増大に努めている。

3. 女性部組織及び運営

女性部は昭和 35 年 4 月に設立され、現在網走湖 3 支部、能取湖 2 支部の計 5 支部 50 名の部員で構成されている。運営は部長 1 名、副部長 1 名、支部長 5 名、副支部長 5 名の 12 名の役員で行っており、その中で支部の役員が、貯金集め、行事の連絡などを行っている。

主な活動内容としては、植樹運動の参加、夏の交流会、老人ホームのボランティア、浜の掃除、秋にはサング草祭りの出店などを行っている。

3 年に 1 度は社会勉強と部員間の親睦を深める意味を込め、日本国内を始めハワイ、シンガポールなど、少しずつ活動資金を貯金して旅行に行かせてもらっている。個人では出かけられない海外にも、女性部の人達と一緒に参加していいと言ってくれる父さんや家族の気持ちに甘えて、部員皆で感謝をしながら交流を深めている。

私達女性部は、ほとんどの人が今でも、父さんや息子と船に乗り一緒に漁へ出かけている。朝早くから起きて仕事を終えてきても、家に帰ってくると家の仕事が待っている。そうした中での女性部活動なので、時間的にも体力的にも大変であるが少ない部員数なので皆、支部ごとに力を合わせ「漁師の母さん」の力強さをいつも見せ付けてくれている。

4. 実践活動選定の動機

私たち女性部は、重点課題である魚食普及活動の推進として何かないかと考えていたところ、地元の観光協会より「能取湖畔で行っているサンゴ草祭りで地元水産物の販売をしてもらえないだろうか」という相談を持ちかけられた。実際ホタテといえば「オホーツクのホタテ」ということで有名であるが、そこに隣接した能取湖のホタテというのは一般には知られていない。また、網走湖のシジミもほとんどが札幌や旭川等の大消費地に出荷しているため、地元の人々の口に入るのはなかなか難しい。そこで、地域の活性化にも役立つのではということで、昭和60年よりホタテ部会やシジミ部会の協力のもと、能取湖のホタテを使った炊き込み御飯と網走湖産シジミのみそ汁、そして活シジミを販売することにした。

また、昭和59年から老人ホームでボランティア活動を行っている。このボランティアは、組合が呼人地区という所にあった時、老人ホームから「週に一度のお風呂の日は、寮母さんや看護師さん達の手が足りなくなるので大変困っている」という話を聞き、是非ともお役に立ちたいと考えたことが始まりであった。

5. 実践活動状況及び効果

1) サンゴ草祭りにおける特産物販売

例年9月、能取湖の湖岸一面にサンゴ草が咲きほこる季節に、^{うぼな}卵原内観光協会主催のサンゴ草祭りが開催されている。もともとは小さなお祭りであったサンゴ草祭りも、今では国内はもとより中国、韓国などからも毎年27,000名を超える多くの人々が訪れてオホーツクの貴重な自然を楽しまれる様になり、道東を代表するイベントの一つにまでなっている。

その中でも私達女性部が販売しているシジミ汁やホタテ御飯は取れたての食材を使用していることもあり、訪れる人達に好評を得ている。

しかし、ホタテ御飯を出店するには、下ごしらえに大変時間がかかる。ホタテ部会から500kgのホタテを無償で提供してもらうのだが、身を女性部全員で貝から外さなくてはならない。ただでさえ500kgのホタテを剥くのは大変なのに、まず自分の家の仕事を終えてから30分程車を走らせ、1カ所に集まってもらうことから始まるので、1日がかりの仕事になる。次にそのホタテを椎茸とひじきで味を付けなくてはならず、さらに1日必要となる。そうした過程を経て、ようやくホタテ御飯の下ごしらえが完了するのである。

また、この時期は能取湖のホタテ稚貝分散作業の最盛期である。この分散作業は能取湖の水揚げの70%以上を占めるホタテ稚貝を育成する上で大変重要な作業であり、その作業も稚貝にストレスを与えないために深夜から早朝にかけて行う。そのため能取湖地区の部員は朝1時頃には起きて作業員の食事を用意したあと分散作業に出かけ、その仕事が終了次第サンゴ草祭りの準備に取りかかるというように大変な日程となる。

販売当日は役員が朝6時に集まり炊飯器にスイッチをいれ作業が始まる。他の部員は8時に集合することになっているが、ホタテ稚貝分散作業中の為、なかなか人数が集まらないこともある。しかし、地区により分散作業を休むとか、早くに切り上げるなどホタテ部会の配慮もあり極力全員参加するよう努力している。

私がいつも思うことは、サンゴ草祭りでホタテ御飯を売る事も、能取湖のホタテをPRする事も大切であるが、部員達が4日間仕事をしながら集まってくれる、その過程が活動

をしていく上での女性部の原点ではないかと思っている。そういう気持ちに支えられながら、一人一人の気持ちを大切に活動していかなければならないと考えている。

2) 老人ホームのボランティア活動

毎年6月から8月の3ヶ月間呼人地区にあるレインボーハイツという入居者58名を抱える老人ホームを訪ね、施設の清掃作業を行っている。作業は毎週火曜日に4名1組になり施設内の各部屋を廻り掃除を行う。最初に掃除機をかけ、その後に雑巾で水拭きする程度のこと仕事自体は大した作業ではないが、部屋に入るとお年寄りの方が一斉に声を掛けてきたり手を握ってきたりするため、ドキドキする事もある。きっと人を恋しがっているのだと思う。私達は看護に対して専門的な知識も何も持っていないため、初めは対応するのに戸惑うこともあったが、掃除だけではなくこういうふれあいも全部含めてのボランティア活動だと思っている。そして時々だが、洗剤・バスタオルの寄贈や踊りによる慰問なども行っている。

6. 波及効果

サンゴ草祭りのホタテ御飯は、現在では2,500個前後を販売するまでになった。毎年買ってくれる常連さんも出るほどになり、あまり知られていない能取湖のホタテが少しずつ認知されるようになってきた。また、ホタテにしてもシジミにしても多くの地元住民が買いに来てくれるようになり、「地産地消」に一役買っている。

老人ホームの施設も高齢化により入居者が増え、手伝いも年々人手不足になってきているため、先方の施設からもあてにされる状況になってきている。また入居者の方々も女性部とのふれあいを心待ちにしており、喜ぶ皆さんの顔を見る事が私達の新たな活力になっている。

7. 今後の計画と課題

こうした活動を実施するに当たり、心配な事は部員達の健康だと思う。忙しい仕事の中での活動になるため、負担が掛かり過ぎると、女性部全体がパニックに陥りかねない。このようなことにならないためにも、家族の協力を得ながら人数調整に工夫をして対応していかなければならない。

サンゴ草祭りは現在シジミとホタテを販売しているが、今後はあまり一般的に流通していない魚に、干すなどの加工をして販売することにより付加価値の向上を図り、同時に広く普及させていきたいと考えている。

ボランティア活動は資格があると、もっともってお年寄りの人達の気持ちを理解でき、力になれるのではないかと思う。現在部員の中には看護師の免許を持っている人達が4名程いるので、その人達に講師となってもらい勉強会などを開催したいと考えている。

私達の活動はこうした小さな積み重ねによって成り立ち、それが地域の発展のみならず自分自身の成長にもつながるものと信じ、部員全員が協力し合いながら活動を続けていかなければと決意する次第である。

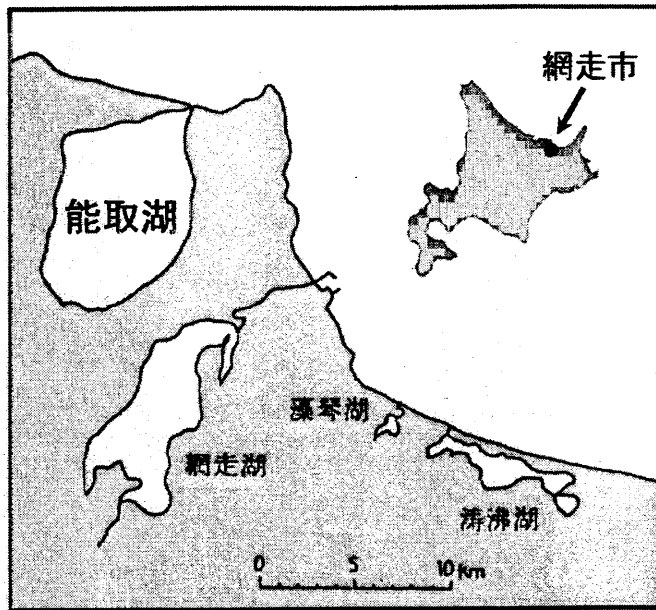


図-1 地域の位置図

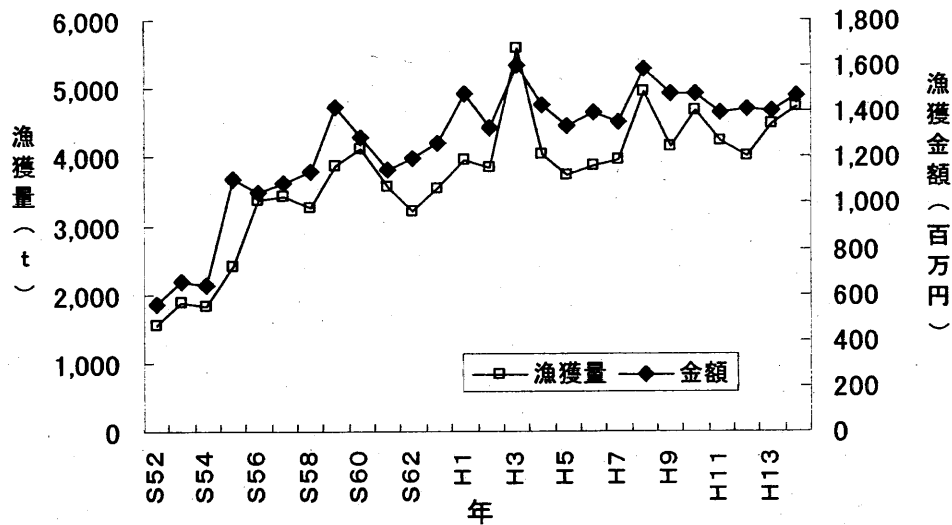


図-2 総漁獲金額の推移

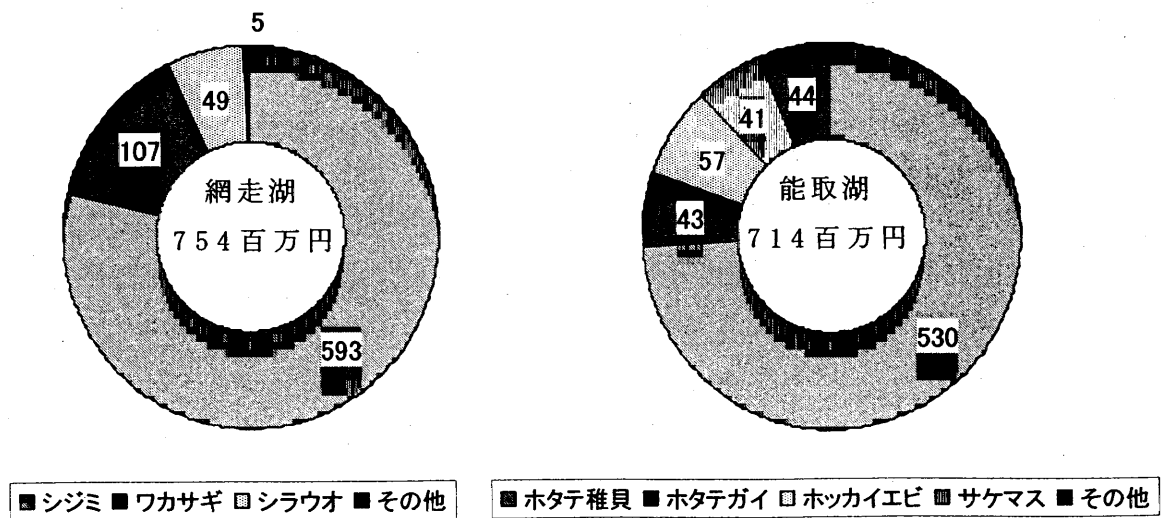


図-3 網走湖、能取湖における漁種別漁獲金額 (単価百万円) (平成14年)

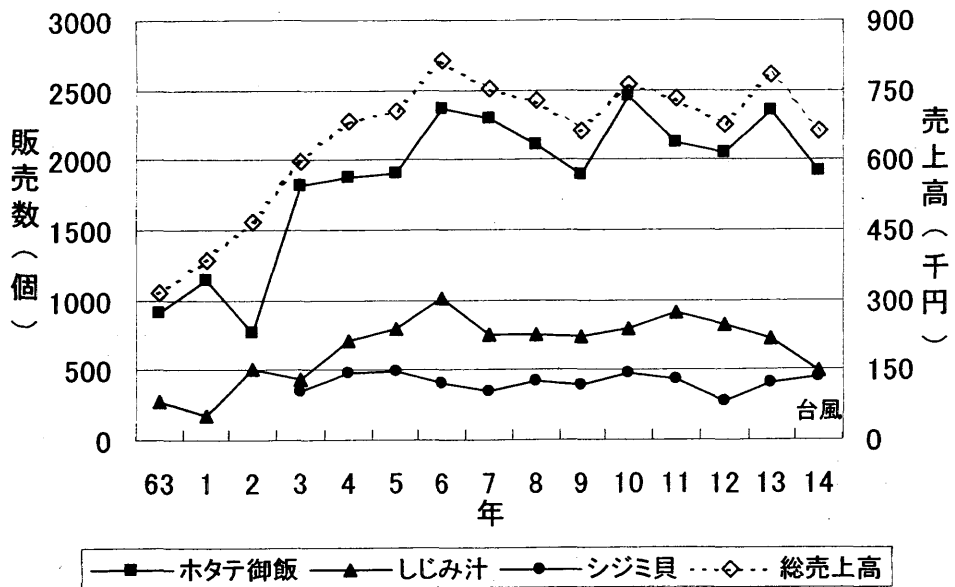


図-4 サンゴ草祭り販売数の推移

サンゴ草祭り



老人ホーム
ボランティア活動